

株 式 会 社 エ ー ワ ン 精 密

平成29年6月期・第2四半期決算説明資料

平成 29 年 6 月 期 ・ 第 2 四 半 期 決 算 説 明 資 料 目 次

	ページ
(1) 当社の事業について	
① 当社の事業展開	1
② 事業内容・特色	2
③ 自動旋盤用カム部門	3
④ コレットチャック部門	4
⑤ 切削工具部門	5
(2) 決算について	
① 決算の概要	6
② 損益の状況	7
③ 財務の状況	8
④ キャッシュ・フローの状況	9
(3) 今後の事業展開	
① 自動旋盤用カム部門	10
② コレットチャック部門	11
③ 切削工具部門	12
(4) 添付資料	13

当社の事業展開

経営理念

高品質な製品をより低コスト、短納期で
顧客のニーズに応え製品を提供する

ものづくりに不可欠な工具を扱う

利益を出せる事業を行う

業界のトップを狙える事業を行う

事業内容

自動旋盤用カムの製造・販売（昭和45年～）

コレットチャックの製造・販売（昭和51年～）

切削工具の再研磨及び特殊切削工具の製作（平成11年～）

事業領域

旋盤による旋削加工・フライスによる切削加工に使用される消耗工具に特化

機械により素材を削り出し精密な部品加工する根幹となる製造工程に的を絞っている

工具の中でも使用される状況に応じて種類・形状が多岐に亘り製造に手間のかかる工具

他社との差別化・当社の特色

多品種で手間のかかる工具に1本から高品質・短納期対応する

直販比率が高く製造・販売両面で利益を享受できる

15,000社以上の顧客からリピートオーダーが入る

自動旋盤用カム部門

カム式小型自動旋盤で使用するカムの設計・製作・販売

- ・同じ部品を大量に効率的に生産できる機械
- ・単品、大量生産部品がアジアなどの海外生産に移行してから機械自体が製造されていない
- ・カム式機械を使用する顧客からの受注に対応

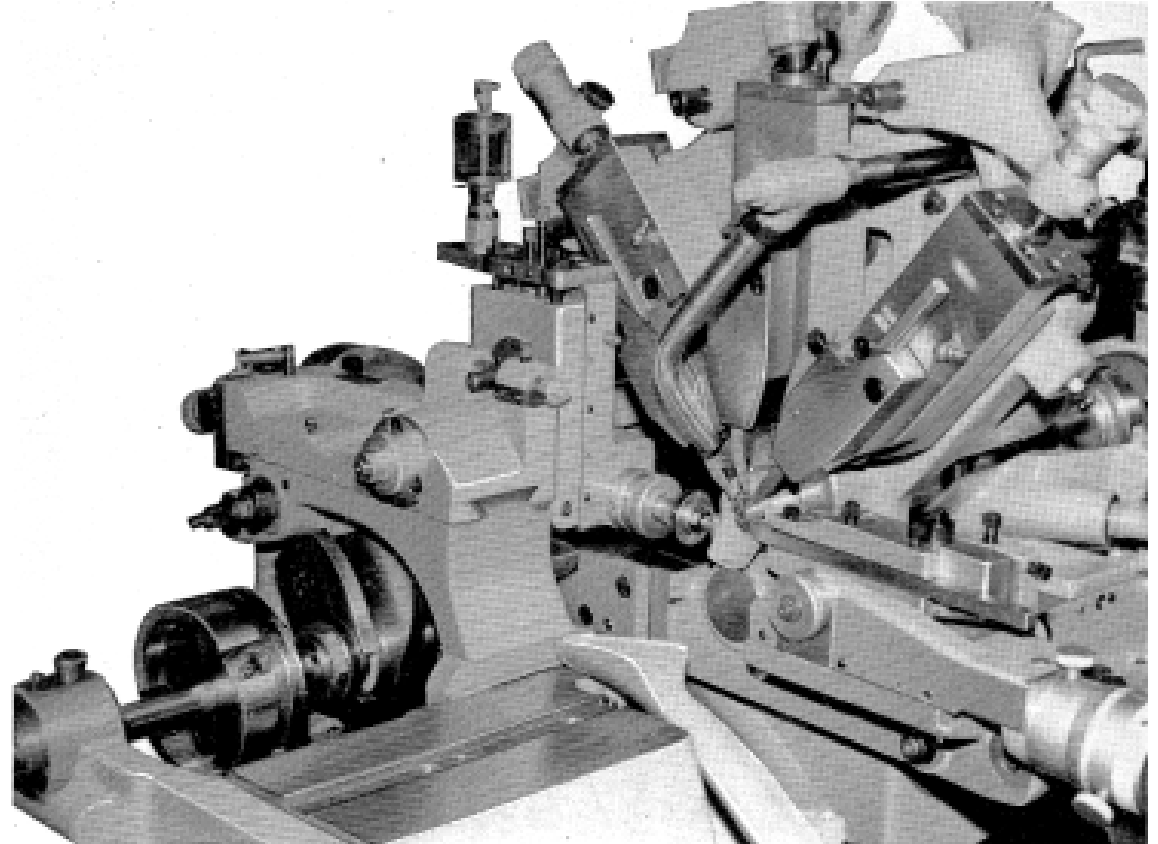
製品写真



カム式自動旋盤(型番: NS-P1053)



カム取付後写真



コレットチャック部門

主に小型自動旋盤で使われるコレットチャックの製造・販売

コレットチャックが主に使われる機械

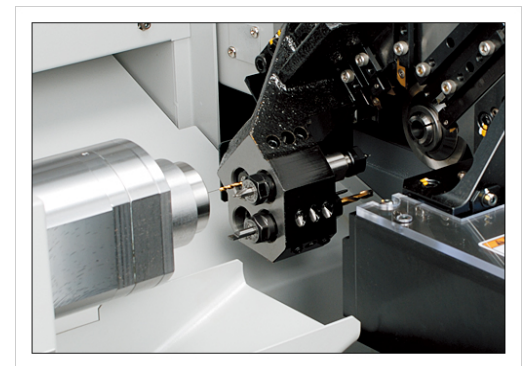
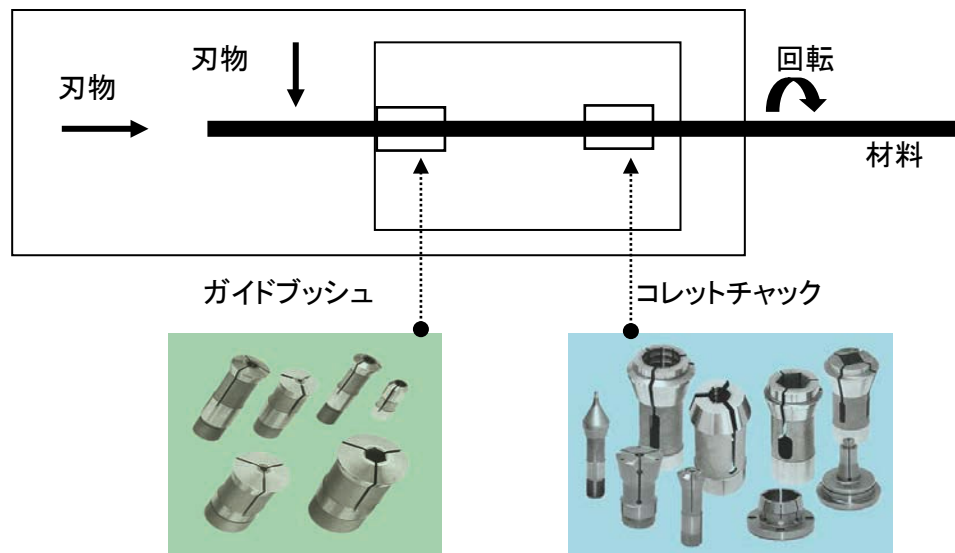
NC旋盤 2,605億円(2016年生産額) 16,464台
うち 小型CNC自動旋盤約 1,420億円(2016年推定生産額)

主な小型CNC自動旋盤メーカー

シチズンマシナリーミヤノ、スター精密、ツガミ、高松機械

特殊コレットチャック

専用機 848億円(2016年生産額) 3,658台



加工部品

精密機械、産業機械、電子部品、半導体、自動車、航空機、医療機器など



切削工具部門

金属等の切削部品加工に使用される工具の製作・再研磨

加工のイメージ



主に切削工具を使用する機械

マシニングセンター	2,073億円(2016年生産額)	22,065台
NCフライス、中ぐり盤	179億円(2016年生産額)	906台

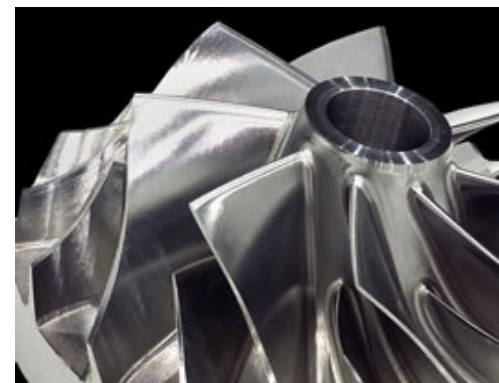
使用される工具

超硬エンドミル	491億円(2016年生産額)
超硬ドリル	357億円(2016年生産額)
その他超硬工具	361億円(2016年生産額)

主なマシニングセンターメーカー

オークマ、ヤマザキマザック、森精機、牧野フライス
キタムラ機械、安田工業、松浦機械、東芝機械
三井精機、三菱重工など

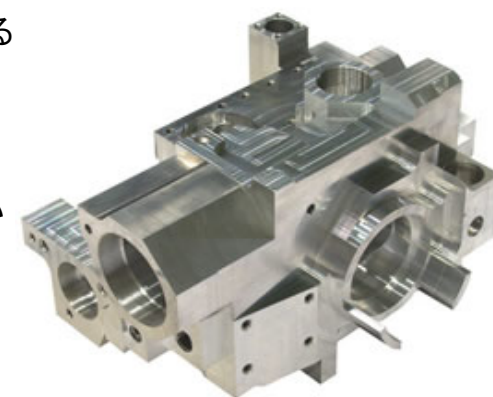
加工部品のイメージ



- ・材料を固定し、切削工具が回転して材料を切削して部品形状を作る
- ・小物から大物まであらゆる部品加工に使用される
- ・ロットのある部品の場合、特殊切削工具で量産加工することが多い

加工部品

一般機械、自動車、精密機器、電子部品、航空機、金型



平成29年6月期・第2四半期累計期間 決算概要

売上 国内製造業は夏場にやや低調になったが、秋口から回復傾向となり12月に掛けて
当社の受注も緩やかながら増加。年末は大手製造業の長期休暇入りがあり、量産
加工は減少し、単品加工や設備は逆に増加。

原価 生産設備は例年並みに導入したが、建物付属設備などの償却が進み固定費が
前期に比べて低下。

利益 前期計上した投資有価証券売却益がなくなった分、四半期純利益は減少。

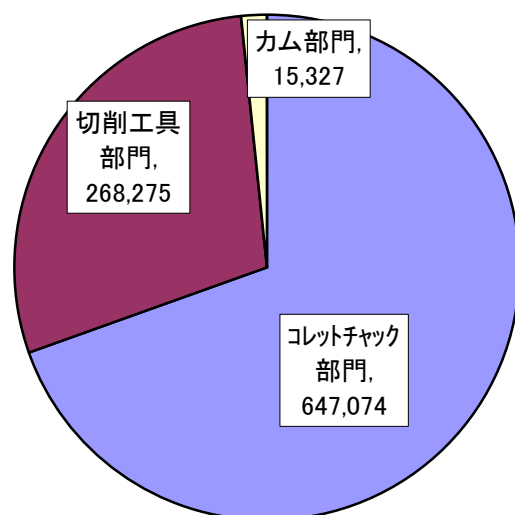
人件費

	(千円)	
	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
労 務 費	377,239	373,860
コストに占める比率	54.5%	55.7%

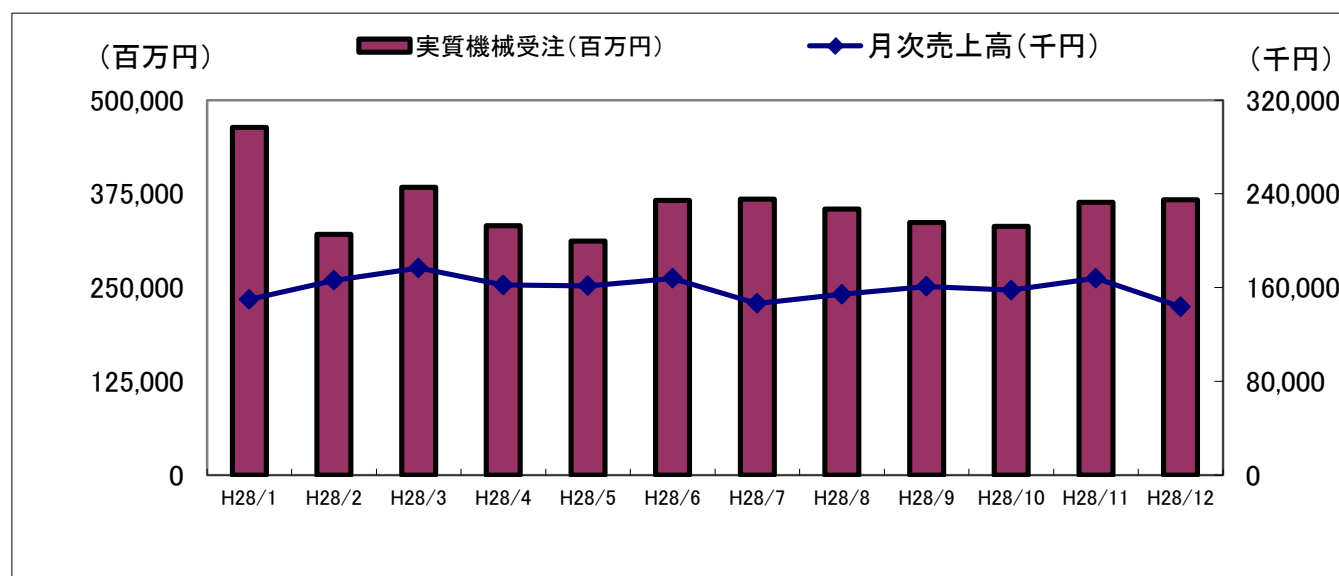
設備投資額と減価償却費

	(千円)	
	前第2四半期(累計)	当第2四半期(累計)
設備投資額	75,203	76,444
減価償却費	94,827	87,109

部門別売上構成比(千円)



実質機械受注と月次売上高



平成29年6月期・第2四半期 損益の状況

(単位：千円)

	前第2四半期(累計)			当第2四半期(累計)			増 減 要 因
		売上構成比	前年同期比		売上構成比	前年同期比	
売上高							
コレットチャック	653,629	69.4%	101.9%	647,074	69.5%	99.0%	10月から12月前半まで国内量産加工が堅調で当部門の受注も緩やかに増加。
切削工具	269,381	28.6%	98.5%	268,275	28.8%	99.6%	国内製造業の設備が一定の稼働率となったため、当部門の受注も堅調に推移。
自動旋盤用カム	18,759	2.0%	96.4%	15,327	1.7%	81.7%	カム式自動旋盤の稼働率が低下し、当部門の受注も減少。
合 計	941,769	100.0%	100.8%	930,677	100.0%	98.8%	
売上原価	542,473	57.6%	99.9%	528,356	56.8%	97.4%	減価償却費が微減となった。
売上総利益	399,295	42.4%	102.0%	402,321	43.2%	100.8%	
販売費及び一般管理費	151,152	16.1%	96.2%	144,609	15.5%	95.7%	役員退職慰労引当金が減少。
営業利益	248,143	26.3%	105.9%	257,711	27.7%	103.9%	固定費微減により利益率改善。
経常利益	256,963	27.3%	102.0%	267,199	28.7%	104.0%	
当期純利益	367,117	39.0%	176.1%	180,642	19.4%	49.2%	前期は投資有価証券売却益があり、当期はその分利益が減少。

平成29年6月期・第2四半期 財務の状況

(単位：千円)

事業年度 資 産	前事業年度末		当第2四半期		主 な 増 減 要 因
	金 額	構成比	金 額	構成比	
現預金	4,792,257	59.4%	5,124,463	63.5%	当期純利益による積み上がり。
売上債権	437,397	5.4%	387,041	4.8%	
棚卸資産	185,964	2.3%	189,587	2.3%	
その他流動資産	24,932	0.3%	18,519	0.2%	
固定資産	2,630,688	32.6%	2,354,947	29.2%	
資 産 合 計	8,071,240	100.0%	8,074,558	100.0%	
負 債 ・ 資 本					
買入債務	16,012	0.2%	16,050	0.2%	
その他流動負債	291,406	3.6%	219,986	2.7%	未払法人税等の減少。
固定負債	424,958	5.3%	400,922	5.0%	
負 債 合 計	732,377	9.1%	636,959	7.9%	
純資産合計	7,338,862	90.9%	7,437,599	92.1%	
負債・純資産合計	8,071,240	100.0%	8,074,558	100.0%	

平成29年6月期・第2四半期 キャッシュ・フローの状況

(単位：千円)

	前第2四半期 (累計)	当第2四半期 (累計)	対前年同期比 増減額	主 な 増 減 要 因 (対前期比)
営業活動によるキャッシュ・フロー	229,217	227,669	▲ 1,548	主な増加要因：税引前当期純利益 267,199千円 減価償却費 87,109千円 主な減少要因：法人税等の支払額 141,980千円
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 108,524	▲ 77,044	31,480	主な減少要因：有形固定資産の取得による支出 76,444千円
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 108,361	▲ 120,050	▲ 11,689	主な減少要因：配当金の支払い額 120,050千円
現金及び現金同等物の増減額	12,331	30,574	18,243	
現金及び現金同等物の期末残高	240,152	489,737	249,585	

今後の事業展開 ～ 自動旋盤用カム 部門

事業展開

- ◇カム式自動旋盤(すでに製造中止)は単品大量生産向きで少量ながらカムの需要は継続
- ◇将来的には減少傾向

競合状況

- ◇3千5百万円弱の市場規模で既存の中小企業が継続している

当社の事業展開

- ◇既存の償却済設備と現状の人員で対応
- ◇低コスト製造を徹底

今後の事業展開 ～ コレットチャック 部門



小型CNC自動旋盤用コレットチャック

推定市場規模 25～30億円

メーカー 4社程度

その他 専用機コレットチャック

メーカー 3、4社程度

<今後の方向性>

- ◇小型精密部品の分野では今のところ代替する加工方法は少ない(コスト、時間などを考慮して)
- ◇世界的に小型精密部品に要求される精度、加工難易度は厳しくなる傾向

<国内の状況>

- ◇CNC自動旋盤 シチズンマシナリー、スター精密、ツガミ3社で世界の大半を占めている
- ◇国内で推定 12 ～ 13万台の機械が稼働している

<当社の対応>

- ◇加工部品に合わせた顧客ごとのオーダー品のコレットチャック対応
- ◇増大する高精度コレットチャック需要に対応した設備・人材の確保・拡充

今後の事業展開～切削工具部門

対象企業	主要加工内容	切削工具の状況		当社の受注	競合状況
大手メーカー 自動車・重電・航空機など 100社程度	量産部品加工 小ロット大物加工	切削工具内製、外部購入(工具商社経由) 社内再研磨、メーカー再研磨		× △	内製、グループ会社 切削工具メーカー 再研磨会社 150社程 全国規模 4～5社 地域型、個人経営 工具商社系 特注切削工具 大手メーカー 10社程度 中小規模メーカー 数十社
準大手・中堅メーカー 従業者100名以上 13,000社程度	量産部品加工	市販切削工具 特注切削工具	再研磨外注 外部購入	○ ◎	
中小加工企業 18万社程度	単品加工 設備・治具、金型 小中ロット加工	市販切削工具 市販切削工具 特注切削工具	再研磨外注 再研磨外注 外部購入	○ ◎ ◎	

＜市販切削工具の例＞ 再研磨

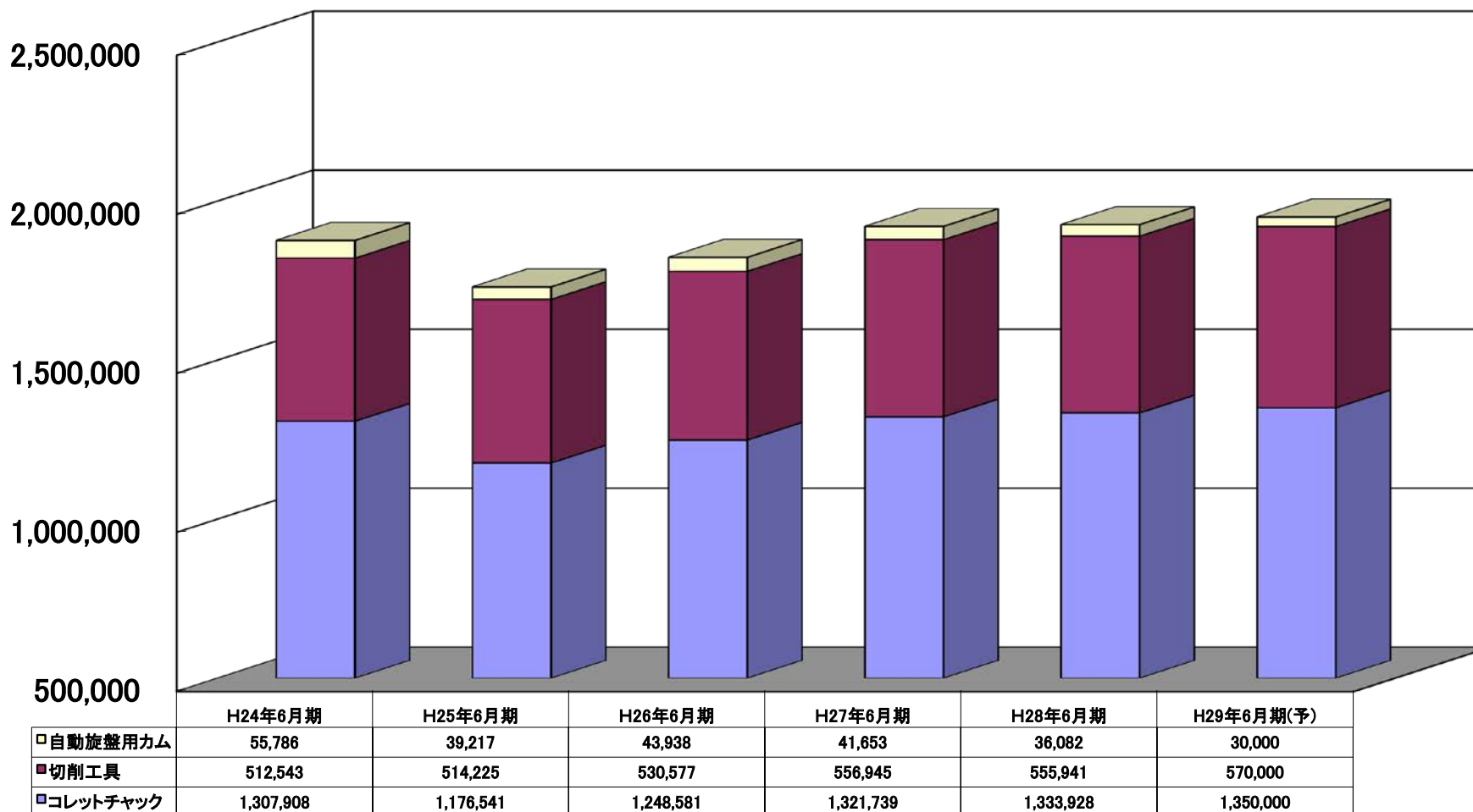


＜特注切削工具の例＞ 製作および再研磨



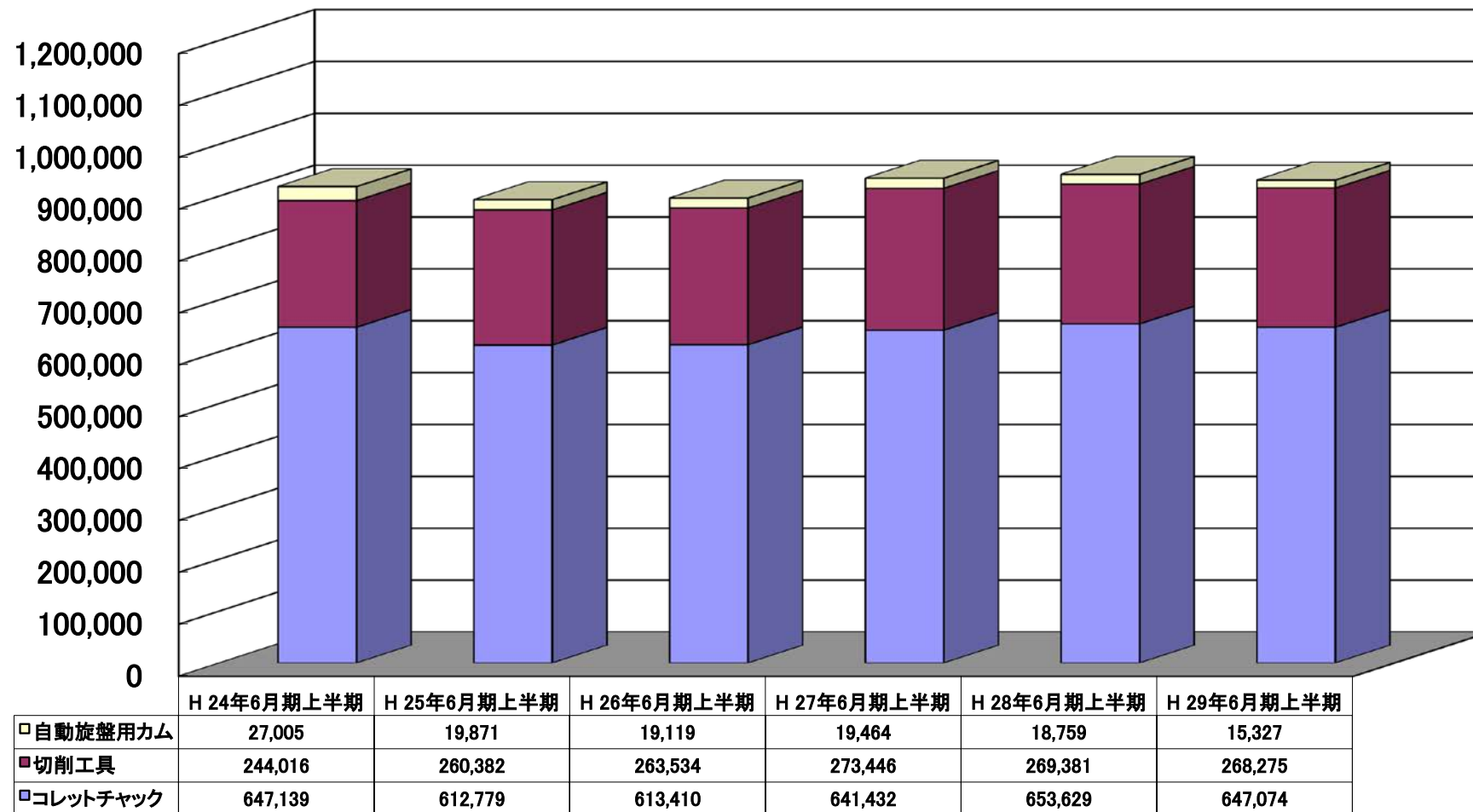
部門別売上状況

(単位：千円)



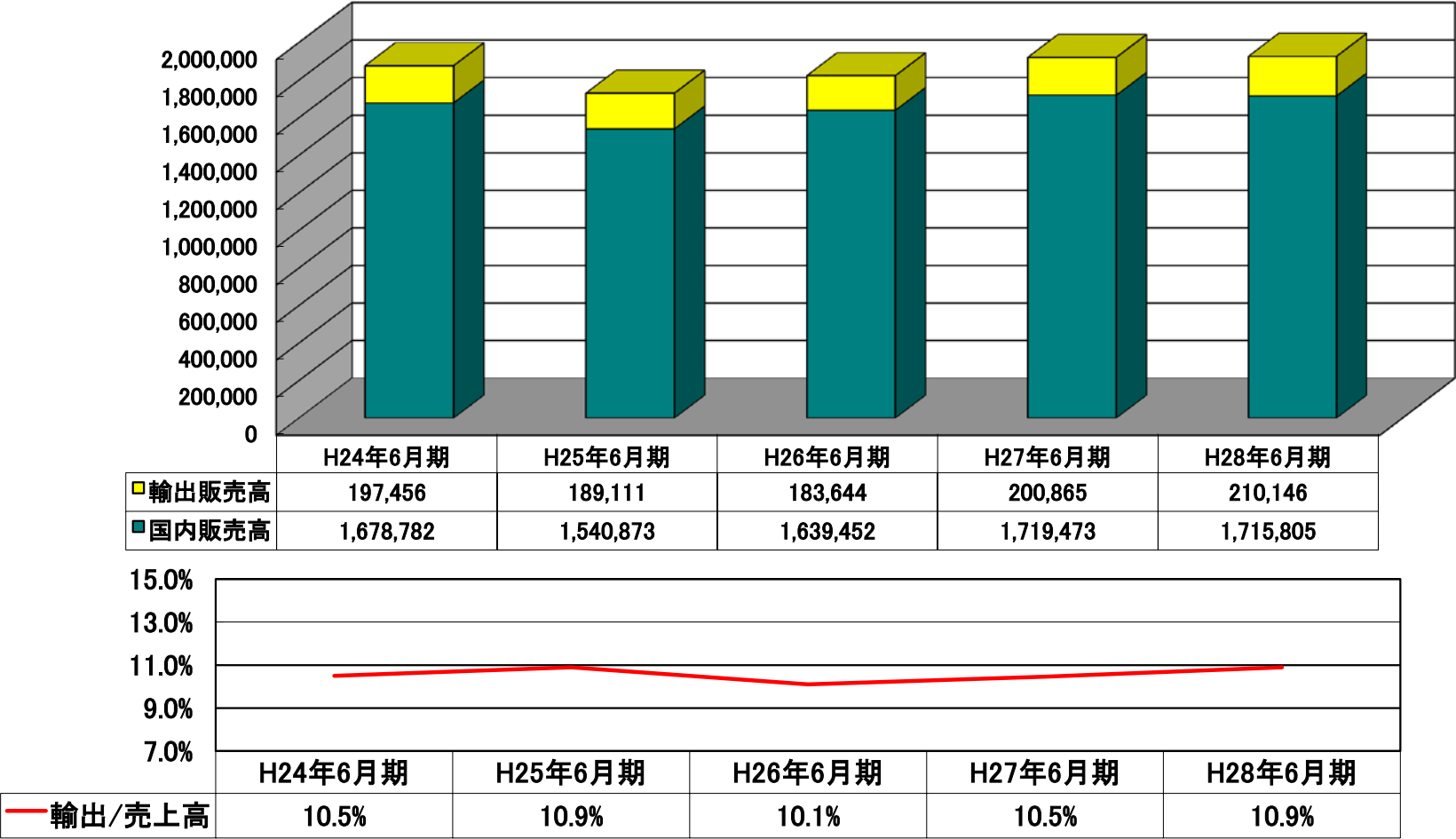
上半期部門別売上状況

(単位：千円)



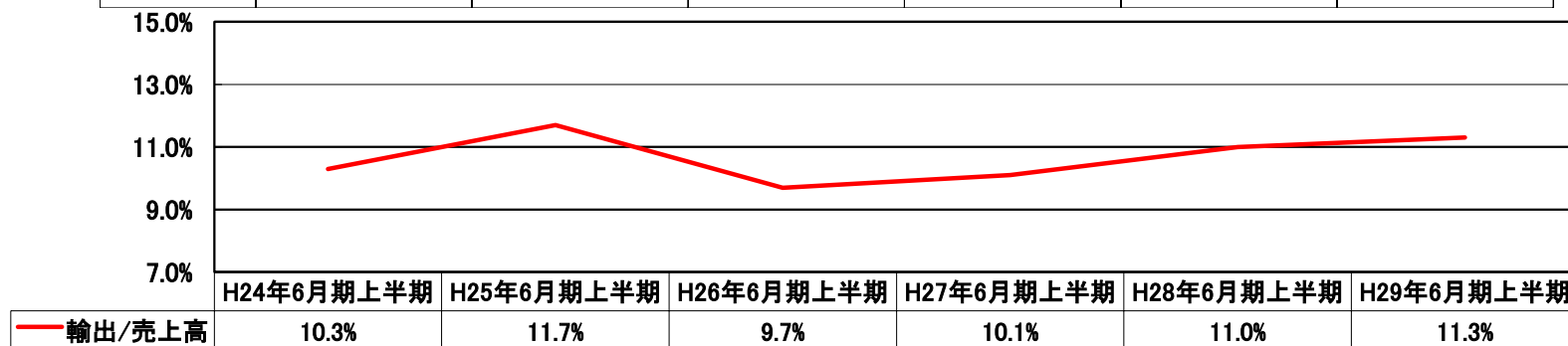
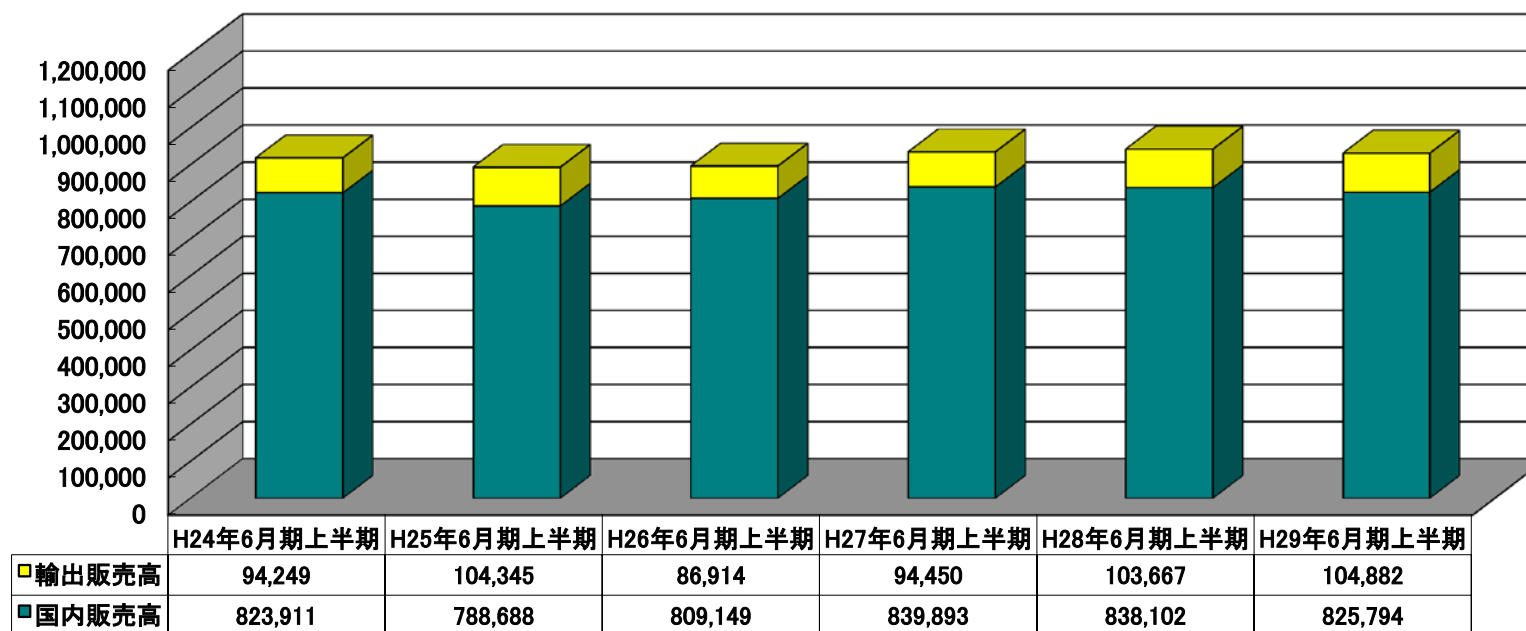
輸 出 売 上 状 況

(単 位 : 千 円)



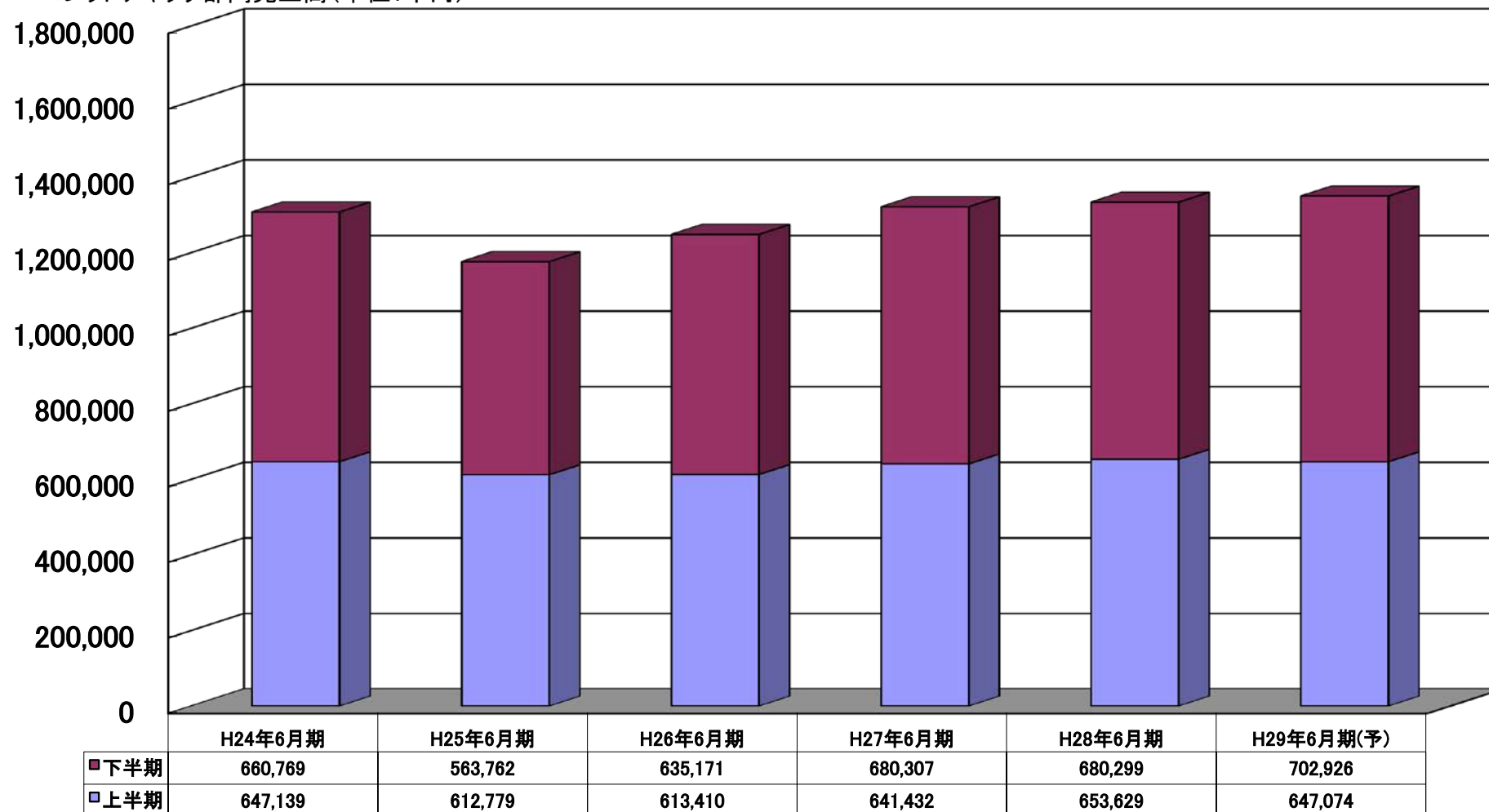
上半期輸出売上状況

(単位：千円)



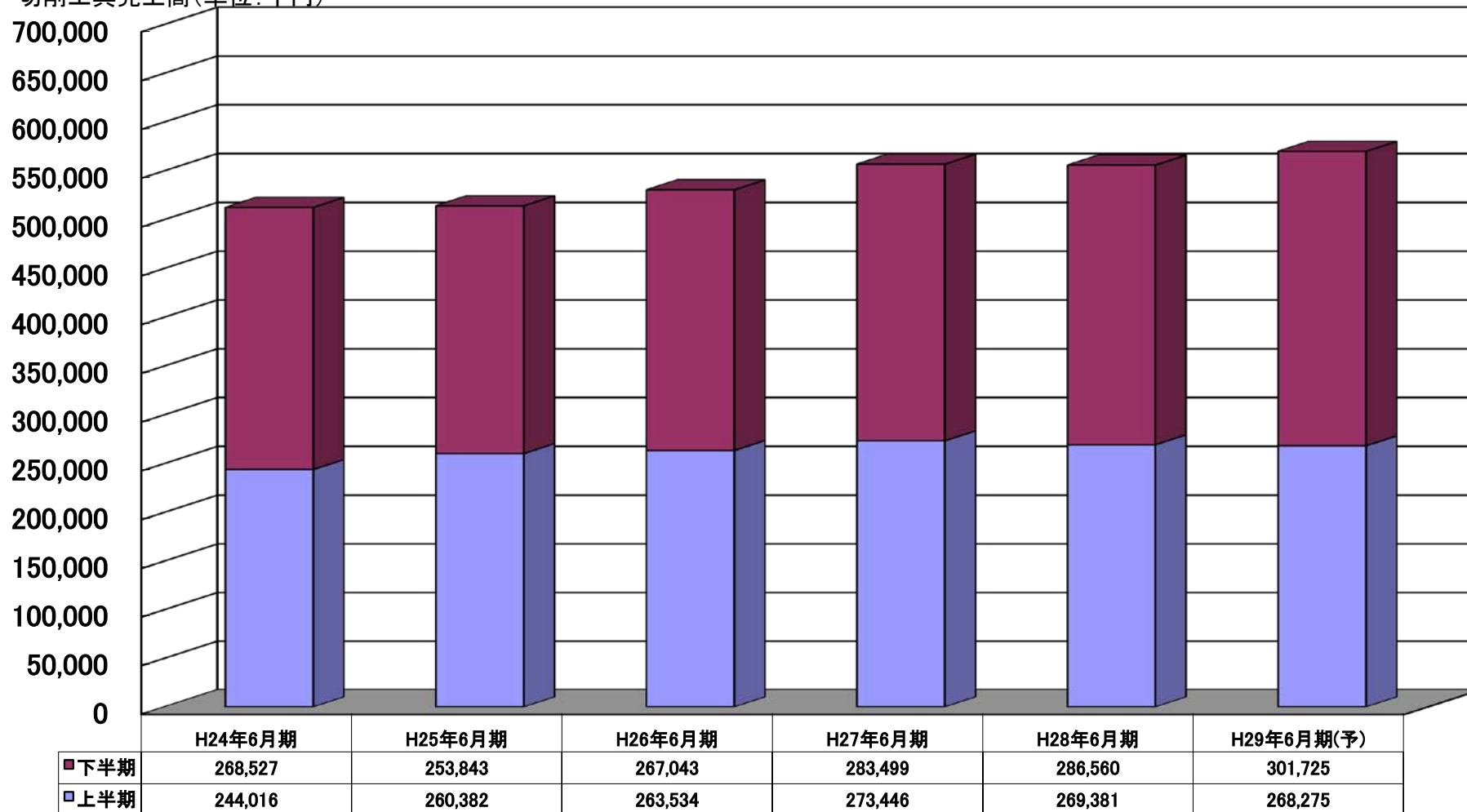
部門別状況 ～ コレットチャック部門

コレットチャック部門売上高(単位:千円)



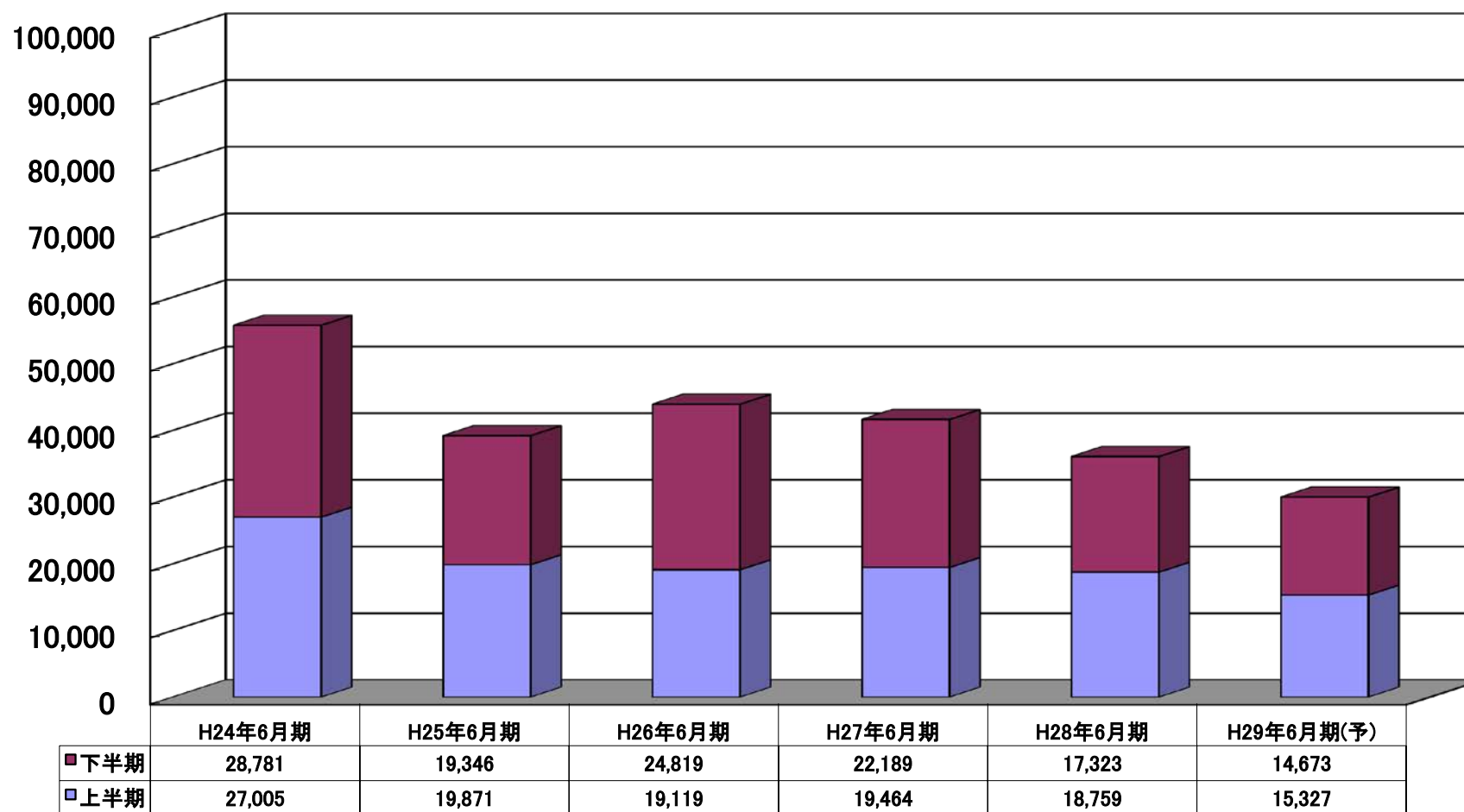
部門別状況 ～ 切削工具部門

切削工具売上高(単位:千円)



部門別状況 ～ 自動旋盤用カム部門

カム部門売上高(単位:千円)



設 備 投 資 と 減 価 償 却 実 施 額

設備投資額 (単位:千円)	H25年6月期	H26年6月期	H27年6月期	H28年6月期	H29年6月期
上半期	63,635	98,641	71,547	75,203	76,444
通 期	73,405	140,894	107,982	98,321	200,000(予)

減価償却費 (単位:千円)	H25年6月期	H26年6月期	H27年6月期	H28年6月期	H29年6月期
上半期	138,261	117,406	104,274	94,827	87,109
通 期	278,748	239,231	212,072	195,071	183,295(予)

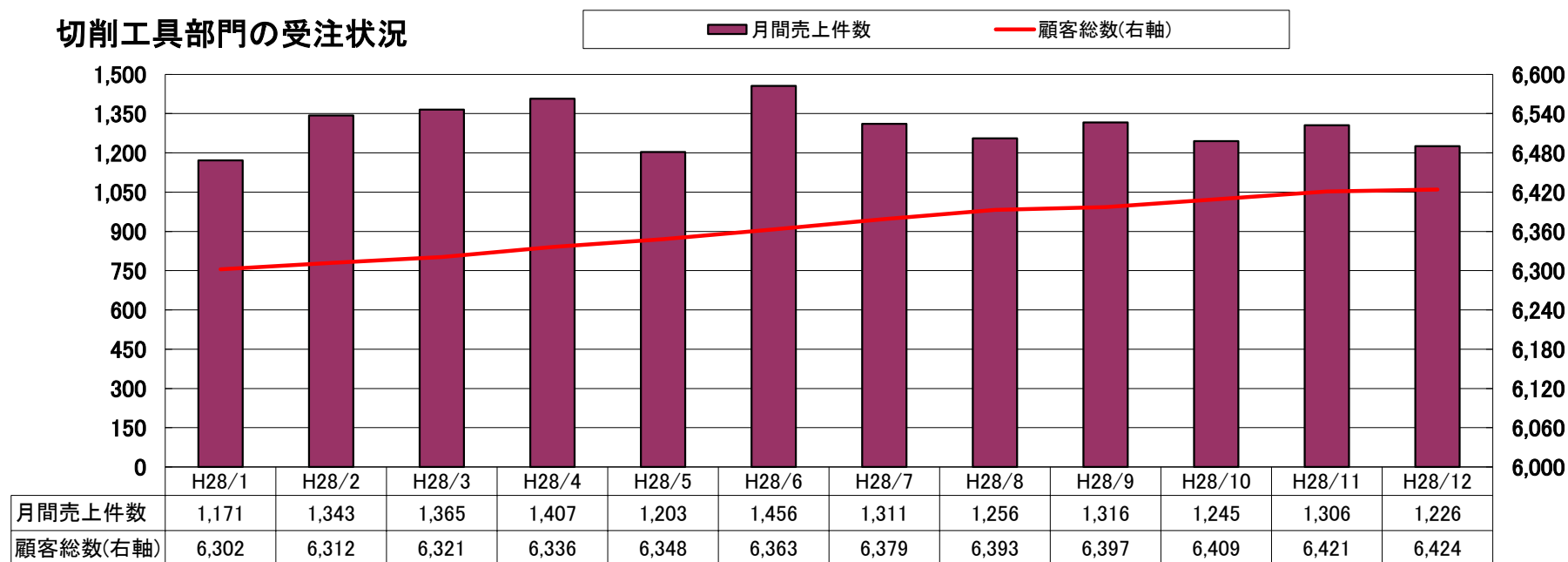
切削工具部門の戦略と受注状況

受注体制(人材、設備、社内オペレーション)を万全にする

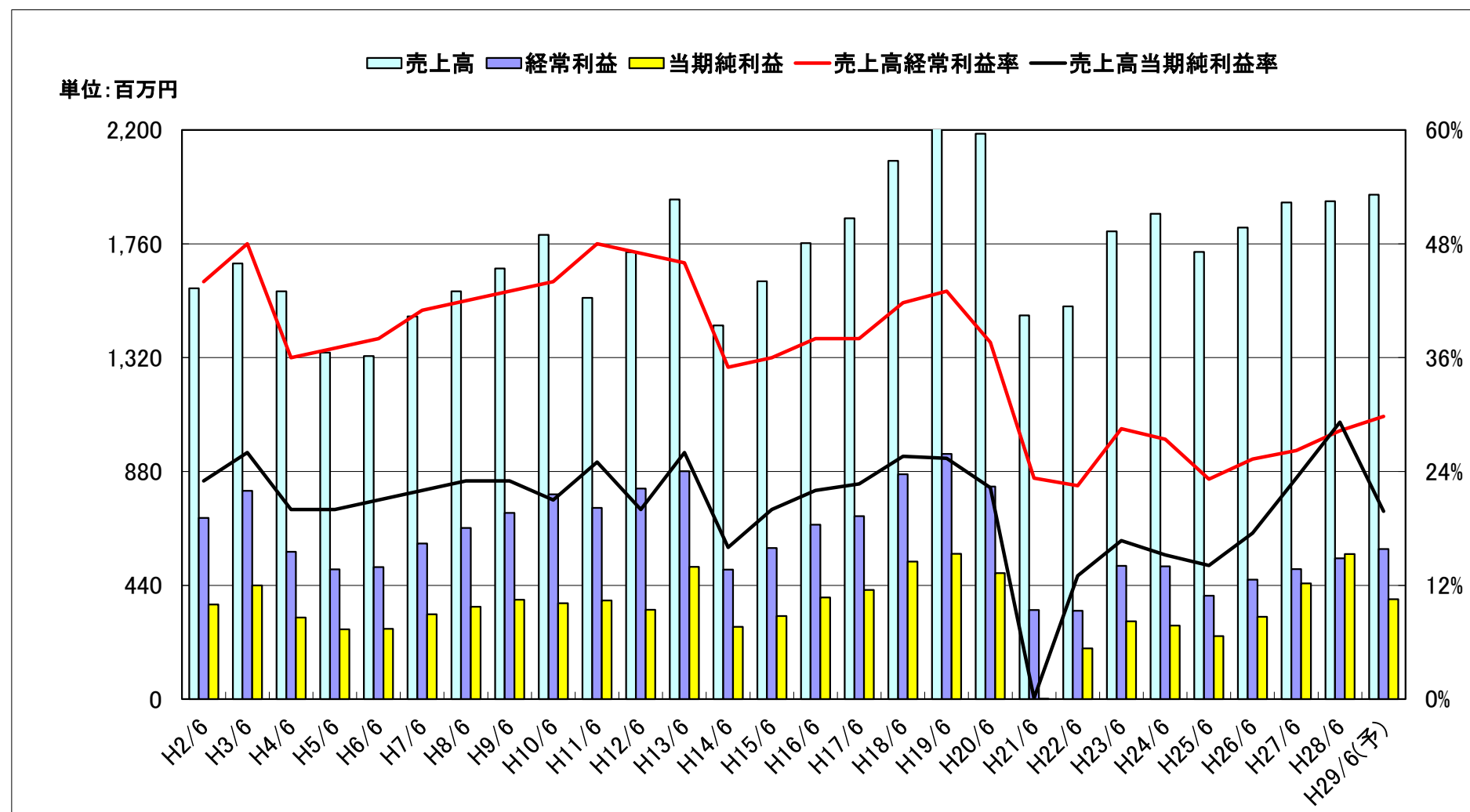
新規設備導入により特殊ものへの対応を強化する

営業地域拡大し認知度向上と地域浸透度を高める

切削工具部門の受注状況



業績の推移



実質機械受注と月次売上高

